

【助成採択者情報】 ※申請書記載内容に基づく

採 択 年 度

2023 年度

氏 名

平塚 裕介

所 属 機 関

一般財団法人竹田健康財団 竹田総合病院 緩和医療科

課 題 名

がん患者を対象とした標準的な終末期ケア手法の確立に関する多施設国際共同研究 (EASED2: East Asian collaborative Study to Establish the standardized care for the Dying process 2)

助 成 額

3,000,000 円

研究報告概要

研究の必要性:

本邦における近年の遺族調査で、終末期に身体・精神的苦痛を抱えるがん患者の割合は、約 4~5 割と報告された。その一因は、科学的に標準的な終末期ケア手法が未確立であるからとされる。我々は、先行研究 (EASED1: East Asian collaborative cross-cultural Study to Elucidate the Dying process 【公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団、平成 28 年度「日本・韓国・台湾 第 2 期共同研究事業」[研究代表者: 森田達也]】) でがん患者の終末期医療の実態を明らかにした一方で、標準的な終末期ケア手法の確立に資する質の高い因果推論は十分に行われなかった。ランダム化比較試験が困難な終末期ケア領域において、標準的な終末期ケアの確立のためには、質の高い因果推論が可能な観察研究の遂行が望まれる。

目的:

本研究の主目的は、抗がん治療終了後のがん患者の諸症状に対する最も有効な終末期ケア手法を明らかにすることで、副次的に、日・韓・台の 3 カ国間でのそれらの相違を探索することである。

研究方法:

対象; 日・韓・台 38 施設の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム・外来で、抗がん治療を終了後に専門的緩和ケアを受けるがん患者。

デザイン; 多施設国際共同前向き観察研究

評価方法; 抗がん治療を終了した患者の初回診察日に患者登録を行い、担当医師が、登録日、特定症状に対する特定治療開始時 (中間データ)、緩和ケア病棟入院日、死亡時または 6 か月後の 3-4 時点で、各調査項目を評価する。

倫理的配慮:

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を遵守して実施する。

期待される結果:

本研究を通して、終末期ケア領域に、Best Evidence としての比較群のある観察研究のエビデンスを蓄積することで、標準的な終末期ケア手法の確立への寄与が期待できる。さらに、本研究の成果を通して、当学会の各診療ガイドラインにおいて新たな推奨の策定や更新が促進され、科学的根拠に基づく質の高い終末期ケアの普及・均てん化への寄与が期待できる。